

野外活動での安全性・ブヨ、ハチの対策など

小菅村では 8 月に熊の目撃情報がありました。人間及び畑などに被害を出していないため、空砲によって山へ追い返すため、猟友会員の出動がありました。

そして今回、9 月 24 日より、「有害鳥獣捕獲」として、熊捕獲のための出動要請が出ました。

一昨年に、奥多摩で登山家の山野井さんが、トレーニング中に熊に襲われるという事故があり、大きなケガをされました。

実際に、熊よりも、マムシよりも、死亡件数が多いのが、ハチです。

① ハチ・・・今シーズンは、ハチの被害が多かったです。小菅村民だけでなく、本会のキャンプでも 1 件、ハチの被害がありました。猛暑の影響か、私自身も小さいものですが蜂の巣を 5 つほど駆除しました。

特に、以前ハチに刺されて抗体を獲得した大人の方が危険とのことですので、お気をつけください。実際に厚生労働省のデータを見ても、45 歳以上の死亡例が多いようです。

経験が増えるほどによっては、ミツバチに刺されてもショック症状が出ることもあるらしいです。

小菅村では、ブヨ(ブユ)が多く発生しています。小菅村役場、小菅村観光協会でも、ブヨの被害に困っています。

② ブヨ・・・こちらも例年どおり発生しました。朝夕の時間帯、曇りの日、草むら、畑などに多く発生したようです。

刺された時に個人差が大きく出ます。ひどい場合は、水ぶくれ、化膿して、通院する人もいます。

対策は、肌を出さないことが一番です。また、通常の虫除けよりも「ハッカ油」が効くようで、本会のキャンプでも利用していますし、小菅村の各所で販売しています。

天敵がトンボという説があり、小菅村観光協会では、使用不可能なプールをビオトープにしてトンボを増やす努力もしています。

本会のキャンプ場もブヨがいます。参加者、スタッフの

皆様には服装とハッカ油で対策をしてもらいつつ、今年はキャンプ前、早めに草刈りをして草むらを作らないようにしました。少しは減ったと思うのですが、それでも発生していました。

自然の中で活動する以上、ケガやヤケド、虫対策として肌を露出させないことは基本だと考えています。

③ ブヨに刺された時どうするか・・・

・傷口をよく絞り、毒を取り除くこと

・傷口を搔かないように、ムヒパッチなどをする

※(「ウエルシア薬局」が安く買えます)

・耐えられないときは冷やすこと。

・塗り薬は「ステロイド(副腎皮質ホルモン)」が効きます。しかし注意点があります。

・妊婦さんは塗ってはダメ。目の周りも塗ってはダメ。

・個人差が激しいです。ひどいと思ったらすぐに医療機関へ！！

④ 自然の中で活動することについて

9 月に富士山に登りました。スニーカーの人が多く、ザックの小さい人が多くいた。晴天時には問題ないけれど、悪天候やケガの時に自力での脱出(自己責任)ができるようには見えなかった。

自分とは別の集団だから、完全に他人で、心配しても意味がないので、無視することにしたが、怖いことだと思った。

ビーチサンダルの人もいた(足が擦り切れまくっていた、なぜだろう?)。これはレアケースなので笑えたが。

知らない人、初心者ほど、装備も準備も意識も低い。学生の探検部で学んだことであり、当時の自分の活動を振り返っても、ゾツとすることが多い。

「気を引き締めよう」と、よく考えた夏でした。これからのシーズン。ヘッドライト、非常食、地図を持っていますか？車のスペアキーは持っていますか？

携帯電話は万能ではないですよ！！

(事務局)